

新病院の機能 その2 広報げろ 2011.8

新病院の機能 その2

新しい病院の建設は一階の骨組みから二階の床の工事にさしかかろうとしています。二階には管理部門、リハビリ、給食部門、透析部門などが入ります。

透析部門

現在の透析室は一度に五人が透析を受けられる態勢です。透析の希望者は増加していますが、現在はベッド数、マンパワーからみても一日五人が限界です。新病院では10ベッドを用意しました。一度に10人が透析を受けられることとなりますがそのためにはスタッフの確保が重要な課題です。

リハビリ部門

リハビリは急性期から慢性期まで幅広い入院患者に対応する当病院ではなくてはならないものです。現在のリハビリ室は定められた施設の基準を満足させるものではありません。新病院では各療法士が活動できる十分な広さを備えたものとなります。プライバシーにも配慮した設備を取り入れています。また現在は外来患者に対する運動療法についてはその実施が困難でしたが新病院では周辺の運動施設の利用が容易になり健康管理の面で運動療法がより効果的に行えるようになるでしょう。

給食

現在の調理室は設備や環境が老朽化し時代遅れとなっています。新病院ではオール電化の最新調理設備を備えます。湿式だった床は乾式とし、衛生的な環境となります。新しい調理方式を取り入れ、作業の省力化、効率化を目指します。温かいものは温かく冷たいものは冷たく食事を効率よく提供できるようになります。

管理部門

新病院ではローコストで高機能という観点から専用の院長室や応接室は設けていません。これらは使用頻度も少ないので兼用となっています。それに対して医局は医師の活動を支援するためにも十分なスペースを設定しました。

病院訪問者関連施設

病院内売店は入院生活に必要な最低限度のものを扱うことになるでしょう。そのたの必要なものは院外施設をご利用いただくことになるでしょう。病院来訪者のための食堂は院内には置きません。病院周辺施設をご利用いただくことになります。

職員対応施設

不十分だった職員食堂や職員更衣室は新病院においても十分とはいえませんが一応まとまったスペースとして設置できました。いうまでもなく病院は職員に対して食事の場を提供するのみで食事を提供することはありません。

新病院は周辺施設で利用できるものはできる限り有効な利用を考え院内での整備は避け費用の削減を図るという方針で建設を進めています。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦